

【3月の気象】

- ▷ この時期は、日本付近を高気圧と低気圧が交互に通過して天気が周期的に変化することが多く、高気圧に覆われて晴れる日もあれば、低気圧の通過で雨をもたらした後、冬型の気圧配置となり真冬並の寒さとなることもあります。
- ▷ 晩霜により農作物への被害が懸念されるとき、気象台では前日に霜注意報を發表します。霜注意報の運用は、その年の気象経過と農作物の育成状況を考慮して農業関係機関と發表の開始時期を調整します。今年は2月29日から運用を開始します。

農業に影響するこの時期の気象と天候

現象の種類	状況や要因	注意すべき事項	着目してほしい情報
晩霜	高気圧に覆われた朝の放射冷却	農作物の管理	霜注意報
乾燥	高気圧に覆われて空気が乾燥	火の取り扱い	乾燥注意報
強風	低気圧の発達などにより 気圧の傾きが増大	農業施設の管理 火の取り扱い	気象情報 強風注意報、暴風警報
落雷 竜巻・突風 降ひょう	寒冷前線近傍、上空寒気により 大気の状態が不安定	農作物の管理 安全な場所へ避難	気象情報、雷注意報 レーダー・ナウキャスト 竜巻注意情報

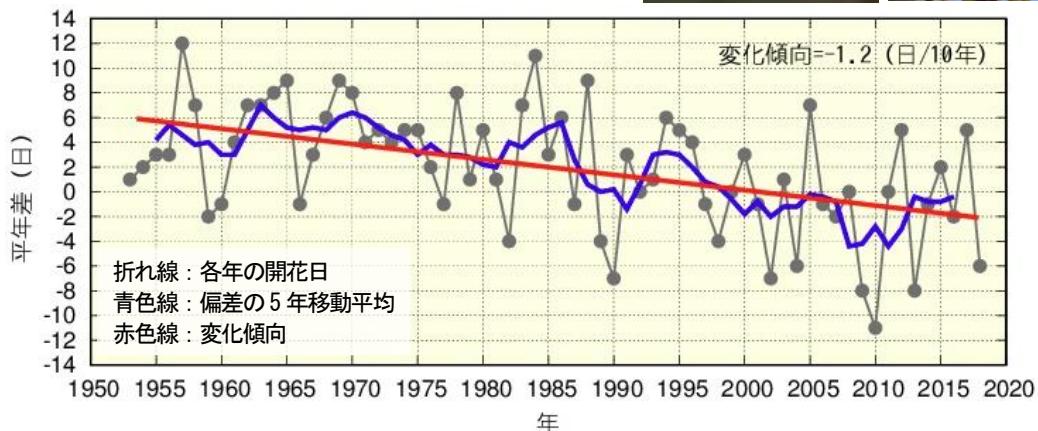
【気象用語】「生物季節観測」とは

気象台が行う「生物季節観測」とは、うめ・さくらの開花した日、かえでの紅葉やいちじくの黄葉した日などの植物季節観測や、うぐいす・あぶらぜみの鳴き声を初めて聞いた日（初鳴日）、つばめ・ほたるを初めて見た日（初見日）などの動物季節観測を行うものです。観測は全国の気象官署で統一した基準で行いますが、対象となる観測種目はその地域特有の生物を定めている場合があります。

観測された結果は、生物に及ぼす気象の影響や、季節の遅れ進み、気候の違いなど総合的な気象状況の推移を把握するのに用いられるほか、新聞やテレビなどにより生活情報の一つとして利用されています。

ここで、うめやさくらの開花日とは、気象台が定めた標本木に5～6輪以上の花が咲いた最初の日をいいます。また、さくらの満開日とは、標本木で約80%以上のつぼみが開いた最初の日をいいます。

地球温暖化に伴う長期的な気候変動によって、さくらの開花日は、全国的に10年あたり1日程度早くなっています。



松山地方気象台が観測しているさくらの開花は10年あたり1.2日早くなっている
(平年値(1981～2010年)は3月25日)

生物季節観測について(松山地方気象台) → <https://www.jma-net.go.jp/matsuyama/seibutsu/seibutsu.html>
生物季節観測の情報(気象庁) → <https://www.data.jma.go.jp/sakura/data/index.html>